

## 天声人語

中国の人びとが豊かになるのを手伝う。どこか誇らしげな気持ちだが当時の経済人にはあつたのだろう。松下幸之助の言葉である。「私個人としてはできるかぎり応援せねばいかんなど思

いました。応援するという言葉を使うことは、少し生意気かもしれないけれども」

▼40年前の10月、中国の鄧小平副首相が来日し、松下電器産業など何社かの工場を訪れた。このときに近代化のために支援をと請われたことが、松下はじめ日本企業の中国進出につながった▼戦争を知る世代の経営者たちには、中国への贖罪意識が強かったに違いない。教える側、

助ける側としての余裕もあつたかもしれない。企業に限らず、対中感情の極めて良好な時期が続いた。今や想像するのも

難しい▼日本の首相による中国への公式訪問が7年近くも行われない。そんな異常な状態がようやく終わり、日中の首脳が経済分野の協力を約束した。教え、教

えられる対等の関係であろう▼米国から貿易戦争を仕掛けられる中国が日本に近づこうとしたとも言われる。トランプ大

統領にも三分の理というべきか、中国が国際ルールをよそに外国の特許を侵害してきたのは確かだろう。日本は静かに改善を促したい▼松下幸之助は中国でこんな言葉も残している。「皆さんは必ず日

本に追いつき、また日本にない新しい技術を開発することでしょう。最初に松下にその技術を売りに来て下さい」。日中の企業がお互いに高め合う。その地点へ行き着くことはできるだろうか。